

6. コロンビアの日常4：家族の実態その3

天理教コロンビア出張所長
清水 直太郎 Naotaro Shimizu

2022年11月号の本連載でも述べたように、最近のコロンビアの家族の移り変わりは大なり小なり、世界での傾向と同様な傾向が見られる。すなわち、家族の変貌は、1) 家族人員の減少、2) 夫婦間の不安定な関係(離婚、別居など)、3) それに伴う一人親世帯の増加、4) 未成年者の性関係の増加、5) 共働き家族の増加、6) 婚姻外の男女生活(同棲など)、7) 単身世帯の増加である。

家族変容の傾向(シングルマザーの増加)の次の「題材」は何だろう? コロンビア特有の現象はないだろうか? そのように考えていた矢先 NiNi(ニニ)という言葉を見つけた。複数形は NiNis(ニニス)で、語源は「Ni estudia, ni trabaja」(勉強せず、働かず)の文節の頭文字をとって、「NiNi」とスペイン語圏諸国では使用している。いわずもがな、これは「not in education, employment or training」(英語)、「ニート」(日本語)、つまり「就学、就労していない且つ職業訓練を受けていない(人たち)」のスペイン語版である(以下ニニと表記)。この現象もまた、世界の共通傾向の一つであろう。

周りにいる「ニニ」

コロンビア出張所では文化活動として、「日本語教室」「空手道教室」「雅楽」などを提供している。若者もいれば中年の方々も参加している。若者の場合は、年齢層でいうと中高生、大学生の世代が多い。

その中で、学校にもいかず、働いてもない生徒がいる。狭義で言うなら、彼らは「ニニ」ではないかもしれない(日本語の勉強やトレーニングをしているので)。しかし学校には通学していない事で無就学、働いていないので無就労なのだ。おそらく金銭面的には保護者がすべてを賄っているのだろう。しかし、である。中高年の受講生で、何もしていない人もちらほら存在する。「ニニ」は学生や主婦は含めない(家業をしているから?)からだろうか。では、中高年の場合は「無職」と同義なのであるだろうか?

現在のコロンビアの状況

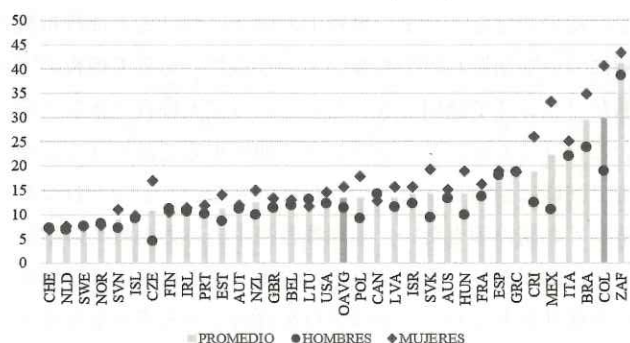
コロンビアでは14歳~28歳の年齢層で「無就学・無就業」者はこの2年間(2020・2021)でおおよそ3,200,000人で、これは全体の26%にあたる若者が「ニニ」であることを意味する。OECD(経済協力開発機構、38カ国)の加盟国の中で、コロンビアは2番目にニニが多い国なのである。⁽¹⁾

調べてみると、ニートあるいはニニの定義が国によって違うようだ。定義上では、年齢層はコロンビアでは14歳~28歳となっているが、日本では15歳~34歳らしい。日本の場合、この範囲では「若年無業者」という名称で、一方34歳から上は「中年無業者」と呼ばれ、また日本では「高齢ニート」とよばれることもある。

ニートの性差

「高齢ニート」はさておき、今回はニニの性差について掘り下げたい。ニニに関しては男女の区別も国によって違う(グラフ1参照)。

グラフ1. Fuente: Elaboración propia sobre la base de los datos de la OCDE (2020)

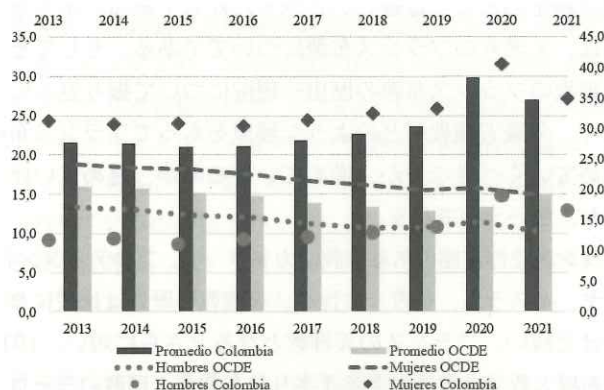


MEXがメキシコ、COLがコロンビア、棒グラフが平均、●が男性、◆が女性
(<https://razonpublica.com/los-ninis-desempleo-brecha-genero/>)

経済協力開発機構中の中でも、先進国より中南米諸国が多い。特にコロンビアやメキシコは顕著な性差が出ている。

コロンビアで言えば、国全体の平均は若者(15歳~28歳)の29.8%がニニであるけれども、女性は40.6%であり、男性は19%である。⁽²⁾ また、ニニの性差で女性の数が多いというのは以前から起こっていたのである(グラフ2参照)。コロンビアナショナル大学の研究では、18~28歳の3人に1人はニニであるという。さらにコロナのパンデミックで、現在ますますニニがコロンビアで増えたのは間違いない。

グラフ2. Fuente: Elaboración propia sobre la base de los datos de la OCDE (2021)



黒の棒グラフがコロンビアの平均値、●が男性、◆が女性、折れ線グラフの点々線(下方)がOECDの男性平均、上方の線が女性平均
(<https://razonpublica.com/los-ninis-desempleo-brecha-genero/>)

男女の形態とニニの関係

実際のある状況から憶測するが、コロンビアの特徴は、ニニと男女の結びつきの形態(婚姻、離婚、同棲、シングルマザーなど)の関係の不安定さにあるのではないかと考えている。日本との違いも若干あるようだ。出張所に出入りしている18歳(A子)と20歳(B子)の二人の女性がいます。A子は以前日本語教室の生徒であり、B子は空手教室の生徒であった。二人とも境遇が似通っている。つまり幼い子供の世話をしているということである。彼女らの実子ではない。A子の場合、自分の母親が2回目の結婚をして生まれた、父親違いの4歳の弟の世話である。またB子の場合、自分の妹が離婚して現在はシングルマザーになり、彼女の子供、B子からすれば甥(4歳児)の世話をしている。要するにA子は母親の代わりに子育てで進学を断念し、B子は4歳児の母親である妹が終日働いているので、B子自身は労働できず、子育てに専念している。日本であれば「託児所に預ければ?」となるが、適切な育児機関が見つからないという。

日本では「ヤングケアラー」の年齢的な定義は18歳未満とあり、障害や病気、介護でケアするケースがより多いのではないだろうか。コロンビアの場合も、確かにそのようなケースもあるだろう。しかしながら、シングルマザーや再婚などの男女関係、夫婦の形態の多様化とその不安定さが社会に影響を及ぼす傾向は、他国よりもコロンビア社会は強いのではないかと考える。結局、学業や就労も含め、自分の人生が思うように設計できない若者が多く存在していることは事実である。

このような背景を知っておかないと、「お道の夫婦の良いお話」は現地人の心には伝わらないのかもしれない。

[註]

- (1) "Los "Ninis": desempleo y brecha de género" <https://razonpublica.com/los-ninis-desempleo-brecha-genero/>
- (2) "Los "Ninis": desempleo y brecha de género" <https://razonpublica.com/los-ninis-desempleo-brecha-genero/>
- (3) "Radiografía de los "nini" en Colombia, un fenómeno con rostro de mujer" <https://unperiodico.unal.edu.co/pages/detail/radiografia-de-los-nini-en-colombia-un-fenomeno-con-rostro-de-mujer/>